

JFES・JFEシビル・ブリヂストン

制振装置を共同開発

初年度売上高1億円計画

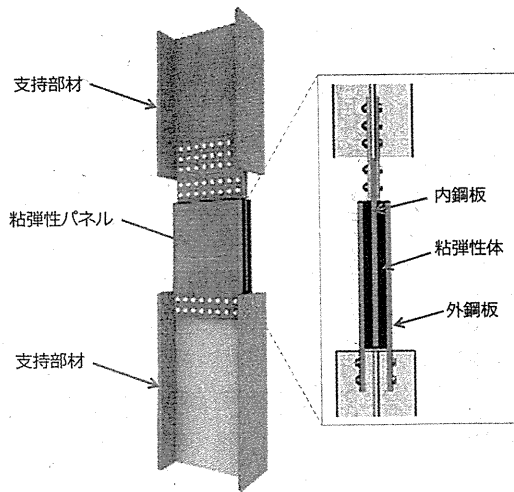
JFESチールは23

日、JFEシビルとブリヂストンと制振装置「間柱型粘弾性ダンパー」を共同開発したと発表した。ブリヂストンが開発した高減衰ゴムを採用し、地震時のエネルギーを効果的に吸収できる。JFESチールが上下支持部材の製造、JFEシビルが組み立てと製品の販売を担当し、初年度の売上高は1億円を計画している。

間柱型粘弾性ダンパーは、上下の梁の間に設置する制震装置。内鋼板、外鋼板の間に粘弾性体を装着した粘弾性パネルと、H形鋼を用いた上下支持部材で構成している。

ブリヂストンが、粘弾性パネルを製造する。30年以上にわたる

高減衰ゴムを採用した間柱型粘弾性ダンパー



免震ゴム事業の材料開発技術を活用し、減衰性能を強化した高減衰ゴムを採用。風揺れなどの微小な振動はもちろん、大地震による建物の揺れや変形を低減する。また、鉄骨造だけでなく、鉄筋コンクリート造など建物の構

造種別に関わりなく適用ができる。

構造安全性、設計法の妥当性は3社で共同実施した各種実験で検証した。3月には粘弾性ダンパーとして初めて、日本建築センターから評定を取得した。